

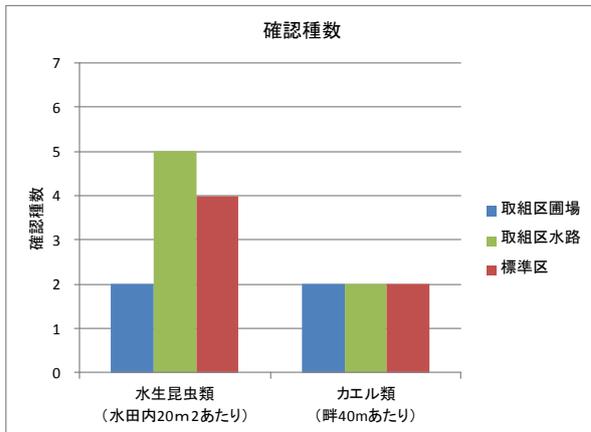
# 生き物緩衝地帯の設置

## 取組区の圃場と水路（生き物緩衝地帯）と標準区との比較

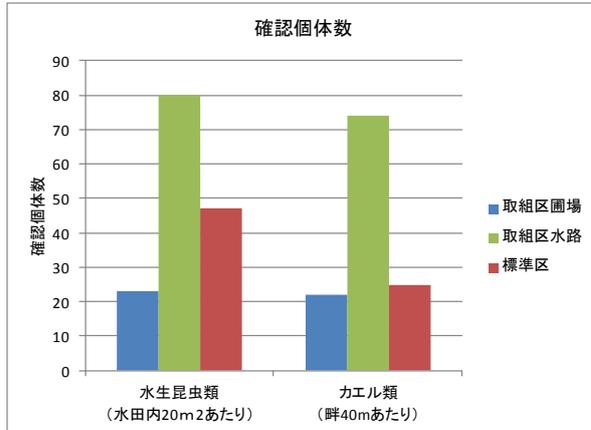
調査地点数: 1地点	種類数			個体数			多様度指数※		
	取組区		標準区	取組区		標準区	取組区		標準区
	圃場	水路		圃場	水路		圃場	水路	
水生昆虫類(水田内20m <sup>2</sup> あたり)	2	5	4	23	80	47	0.26	0.78	1.36
カエル類(畔40mあたり)	2	2	2	22	74	25	0.98	0.97	0.63

注)水路での調査も、水田の調査と同じ方法と範囲で行った。

※多様度指数は「種の豊富さ」と「個体数のばらつき」を評価したもので、**数値が大きいほど生き物が豊かでバランスが取れている**ことを意味する。



取組区の圃場（鯖江市）



取組区の水路（生き物緩衝地帯）

種名	取組区		標準区
	圃場	水路	
シオカラトンボ		2	4
コミズムシ	22	70	29
タイコウチ		4	
コガシラミズムシ		2	
キヒロヒラタガムシ			1
ヒメガムシ	1	2	13
確認個体数計	23	80	47
確認種数計	2	5	4
アマガエル	13	44	4
トノサマガエル	9	30	21
確認個体数計	22	74	25
確認種数計	2	2	2

調査で確認された生物個体数および種数

生き物緩衝地帯の取組区分において、取組区の圃場と水路（生き物緩衝地帯）と標準区を比較すると、水生昆虫類の種類数及び個体数、カエル類の個体数について、水路（生き物緩衝地帯）で多くなる傾向がみられた。

取組区の圃場では、水生昆虫類やカエル類が比較的少なかったが、これは水路（生き物緩衝地帯）に生き物が移動していたためと考えられる。